

ドラム缶を空にする作業

適用範囲

本対策シートは、リスクレベル 3 が適用されるときに使用する。

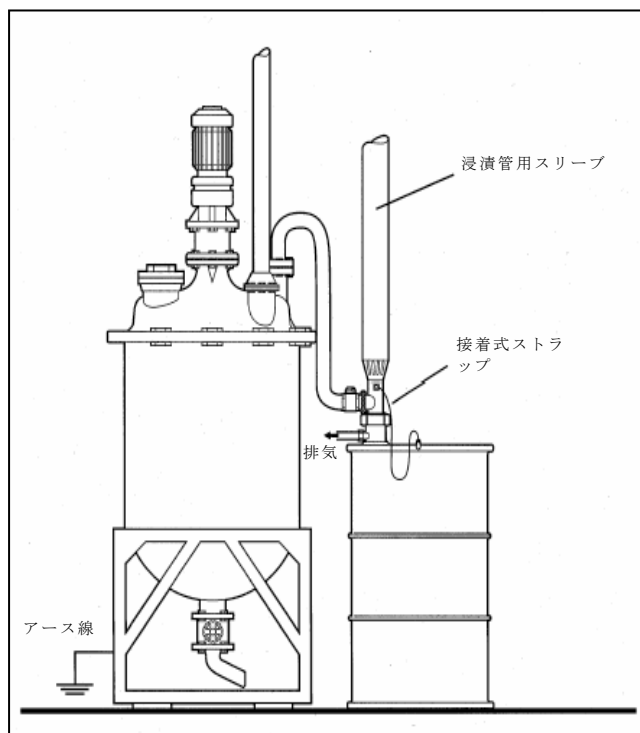
本対策シートは、気密性が高いドラム缶用ポンプの設計と使用に関する好事例および化学物質のばく露を許容できる濃度まで低減するために必要な注意事項を示す。すべての好事例と注意事項に従うことが重要である。化学物質によっては引火性または腐食性があるので、これらの危険性に対しても適切な管理が必要である。詳細は、各化学物質の安全データシート（SDS）の注意事項を参照すること。

本対策シートは作業者の健康を守るための最低限の基準を示すが、工程管理またはその他のリスク管理に必要な基準より低い管理基準を正当化するために利用してはならない。

作業場

- 関係者以外を作業場に入れないようにし、風下で誰も作業していないことを確認すること。

設計と装置



- 作業場の換気が十分か確認すること。
- 浸漬管は密閉式またはスリーブ式にすること。これは、浸漬管をタンクから引き抜くときのたれや漏れを防ぐためである。
- ポンプスリーブを換気して、蒸気を取り除くこと。開口部での吸引風速は 0.4m/s 以上とする。
- 引火性の液体を扱う場合は、適切なポンプ／ファン（防爆型）を使っていること、および全装置が適切に固定され確実にアースされていることを確認すること。
- 作業性を考慮して作業場を設計し、ドラム缶を移動するための機械的手段を用意すること。

- 扉、窓、および吸気口から離れた安全な場所に排気すること。
- ホースなどの部品が、扱う液体に適しているか確認すること。

本シートは、ILO の著作物である「The Chemical Control Toolkit」について、厚生労働省が ILO より許諾を得て翻訳し、内容の改変を行ったものである。

原本 : http://www.ilo.org/legacy/english/protection/safework/ctrl_banding/toolkit/icct/sheets/tcs-306.pdf

Original version of the International Chemical Control Toolkit Copyright © International Labour Organization.

Japanese translation Copyright © 2012 Chemical Hazards Control Division, Ministry of Health, Labour and Welfare.

The ILO shall not be responsible for the quality and accuracy of the translation.